

行政視察等報告書

令和元年6月10日

長野市議会議長 小林治晴様

報告者氏名（代表）
福祉環境委員会委員長 手塚秀樹

この度、行政視察をいたしましたので、その概要について下記の通り報告いたします。

記

- 視察区分 福祉環境委員会行政視察
- 視察者氏名 手塚秀樹、黒沢清一、小林治晴、松木茂盛、小泉栄正、
小林秀子、阿部孝二、小泉一真、高野正晴
- 随行者 書記 内山健二
- 視察期間 令和元年5月13日（月）～令和元年5月15日（水）
- 視察先及び視察事項

視 察 先	視 察 日 時	視 察 事 項
千葉県柏市	5月13日（月） 午前10時15分～正午	・柏の葉国際キャンパスタウン構想について
愛知県岡崎市	5月14日（火） 午前9時30分～11時	・岡崎げんき館について
富山県富山市	5月15日（水） 午前10時～11時30分	・とやまこどもプラザについて

6 視察概要

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
5 / 1 3 (月)	柏市 (千葉県)	<p>・ 柏の葉国際キャンパスタウン構想について (概要)</p> <p>柏市は、東京都心から 30 キロメートル圏内、鉄道で 30 分圏であり、「業務核都市」にされており、「環状拠点都市」の一つである。人口 42 万人の中核都市で、200 万人以上の商圏人口を抱える常磐線沿線の都市である。つくばエクスプレスが運行したことにより、柏の葉は柏市第 2 の拠点と位置付けられた柏市北部開発である。</p> <p>柏の葉国際キャンパスタウン構想は、柏の葉キャンパス駅を中心として、新しいまちを形成する手法として取り組まれている。柏の葉エリアは、旧陸軍飛行場用地で戦後米軍が使用していたが昭和 54 年に返還された土地と、平成 13 年に閉鎖された三井柏ゴルフ場の土地を中心に開発されている。</p> <p>柏市は、「環境未来都市」に対して、6 組織（国立大学法人東京大学、国立大学法人千葉大学、三井不動産株式会社、スマートシティー企画株式会社、柏の葉アーバンデザインセンター、TX アントレブレナーパートナーズ）と共同で提案申請を行っていたが、2011 年 12 月 22 日、内閣総理大臣より当申請が採択され、柏の葉キャンパスを中心とする柏市全域が対象地域として指定を受けた。開発にあたっては、「UDCK」（柏の葉アーバンデザインセンター）を「公・民・学」で運営推進し、大学とまちの融合・次世代のまちの実現を目指している。</p> <p>「環境未来都市」は、政府の掲げる新成長戦略に基づき創設された制度であり、環境・超高齢化対応に向けて世界に誇る先進的な都市をつくるために、指定地域に対して国が集中的に財政支援や規制の特例措置などを実施するものである。</p> <p>公（柏市、千葉県）・学（東京大学、千葉大学）・民（市民、UR、三井不動産）連携により、エネルギーの地産地消などによる低炭素社会を見据えた「新産業創造都市」等を目指している。</p> <p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅を降り、まちに入ると、UDCK プロジェクトの新しいまちを実感できる。 ・ 以前にアーバンデザインセンターびわこ・くさつを視察したが、UDC は新しいまちに有効な手段と感じた。 ・ 構想を実現し続けるためにも人口構成をバランスよく持ち続けることが必要だが、マンションを一例とすると賃貸と分譲を半々とするなどの工夫はされている。若年から中年層は、大学関係者によって維持されているという。 ・ 柏の葉国際キャンパスタウン構想は名前にキャンパスが入る通り、千葉大学、東京大学の存在が大きく、民間の三井不動産の役割も大きいと感じる。ただ、まちには一見無駄に見えるようなものが無く、造られ過ぎた感がある。 ・ キャンパスタウンと銘打って公・民・官・学 7 団体連携するまちづ

<p>5 / 1 4 (火)</p>	<p>岡崎市 (愛知県)</p>	<p>くりで、新たな文化や産業を生み出そうとしている。事業の成果責任を負う団体と責任について明確な透明さが計画に織り込まれていないようで、市民の理解はどうかと思える。また、議会がその経営について直接質問する場面もないとのことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地から離れた地域の区画整理事業と絡めた大規模な新しいまちづくりの手法で、従来にとられない発想で地域住民などを巻き込んで事業運営が行われている。ただ、市の総合計画などとの整合性が取れていないことや市の施策への反映がどこまでできるかなど、不安もある。 ・実際にこの方式で成果を上げている柏市には敬意を表する。が、長野市にこの方式が採用できるかについては、様々な議論の余地があると感じる。柏市の場合は、計画都市のタネ地があり、民間の不動産開発企業とは、ゴルフ場の経営者としての利害関係があったからこそ、うまく協力関係が築けたのだと考える。東京大学・千葉大学の協力も、そこに大学施設を設置しているから、ステークホルダーとして協力関係が築けた。公民学の三者が Win—Win の関係が築けているのは、それが成立しうる環境がそこにあったからともいえると感じた。 ・長野県は、信州地域デザインセンターを今年度立ち上げるという。県民一般が納得するよう説明責任を果たしながら、なおかつ成果も求められるセンター経営のかじ取りは、容易ならざるものだろうと想像する。長野県庁の手腕を見守り、その成果が長野市に及ぶことに期待したい。 <p>・ 岡崎げんき館について (概要)</p> <p>岡崎市は、愛知県の中央部にあり、中央高地に連なる美濃三河高原と岡崎平野の接点に位置する。中京圏の中心都市名古屋市から約 35 キロメートルの距離にあり、市内を東西に国道 1 号、南北に国道 248 号及び国道 473 号が通っている。また、東名高速道路の岡崎インターチェンジや、新東名高速道路の岡崎東インターチェンジといった広域交通網の拠点もある。面積は、約 387 平方キロメートルで豊田市、新城市に次ぎ愛知県内 3 位の約 38 万人余である。</p> <p>岡崎げんき館は、旧市立岡崎病院跡地に、健やかに集い、賑わいを創出する核として、平成 20 年に PFI 事業により建設された。開館に伴い、康生地区にあった保健所が本館の中に移転した。</p> <p>保健所は施設全体が PFI 事業で指定管理されている中に、1 つの公共施設として入っている。</p> <p>維持・管理は岡崎げんき館マネジメント株式会社 (SPC) が行っている。この管理会社は、2006 年 2 月に設立された。出資者は大成建設株式会社、シンコースポーツ株式会社、丸ヨ建設工業株式会社、株式会社日本水泳振興会、学校法人安城学園、株式会社タスク・フォー、大成有楽不動産株式会社である。現在 101 名が勤務し、運営にあたっている。</p> <p>運営については、保健所機能の岡崎市、運営維持管理機能の SPC、</p>
------------------------	----------------------	--

<p>5 / 1 5 (水)</p>	<p>富山市 (富山県)</p>	<p>複数の市民活動団体で構成される「岡崎げんき館市民会議」の3者で行っている。</p> <p>子供から高齢者までこの施設を核として健康づくり活動を積極的に行っている。保健所機能と子育て支援施設機能・託児そして市民の交流・プール・フィットネスなどを備えた健康増進機能などを備えた多機能な複合施設。しかも、中心市街地にあるため市内全域から市民が訪れる。</p> <p>事業構想策定時の施設全体の想定利用者は、年間約 23 万 5 千人(健康づくりゾーン約 15 万人)であったが、平成 30 年度の健康づくりゾーン総利用者数は約 33 万人と想定を大きく上回っている。</p> <p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズにあった施設として人口規模に匹敵する利用者がある。本市においても、様々な施設の複合化は市民ニーズと一致すると考えられる。公共施設のあり方として大変有効と感じた。 ・運動施設との差別化がうまくできていないということで、市民健康づくり支援事業として実施しているプールやジムの利用者が固定化傾向にあるとのこと。民間スポーツクラブへの移行が進まないのは、施設の利用料が低額であることが主な理由で、一部の市民利用者に限られている状態は余り好ましくない。民間との連携等何らかの改善は必要と考える。 ・岡崎げんき館は「BTO・サービス購入型+独立採算型」の事業方式・形態であった。市民の健康増進、病気の一次予防等を目的とした施設で、健康づくりの役割を担っている。このことから考察すると、社会福祉の視点と観点からは PFI 事業としている形態が無理と思える。自治体の特徴を持つ住民サービスを目的とする自主事業としていくことがベターと考える。 ・立地は、市中央に位置するが、公共交通の便が良くなく、車での利用者が多いため駐車場不足が大きな課題となっている。一次予防の施設であり、市のスマートウェルネス事業との連携を考えるなら、「歩いて健康」の実現のためにも車を利用しない公共交通と徒歩の組み合わせの交通手段の推進を目指す検討もいいのではないかと思う。 ・長野市のサンマリンながのとは、設置趣旨は違っているが、岡崎げんき館のような活用方法を検討することも必要と考える。 <p>・とやまこどもプラザについて</p> <p>(概要)</p> <p>富山市は、全国の都道府県庁所在地の中では、2 番目に広い総面積を持っている。市域の約 6 割が林野地となっている。環境モデル都市の選定を受けてコンパクトシティーをめざした都市計画を進めている。また、環境未来都市、国際会議観光都市、国連エネルギー効率改善都市に選定されている。人口は 41 万余である。</p> <p>富山市では、こども図書館と子育て支援センターを併せた「とやまこどもプラザ(愛称名)」及びとやま駅南図書館の複合施設を平成 24</p>
------------------------	----------------------	--

年度に開設した。

とやまこどもプラザでは、子育て支援の拠点として両施設が連携しながら、親子の読書活動を応援するとともに、子育て家庭等の相談・交流の場づくりを行っている。

一方、図書館面から見た場合、子育て世代の利用を想定し、既存施設（平成 20 年度開設）のとやま駅南図書館を拡充してこども図書館を整備した形となっている。

市では、富山駅周辺で公共交通の便が良いという立地条件を活かし、市内外の方々に複合施設を利用いただき、にぎわい創出を図りたいと考えている。

○建物の特徴

各施設が運営面で連携しやすい平面構成にしてある。

- ・こども図書館と子育て支援センターとの一体感を持たせた（意匠の統一、壁を造らない）。
- ・こども図書館と子育て支援センターの利用者が相互に利用しやすいようにプラザ中心に休憩コーナーやトイレ、通路を配した。
- ・入館する前に期待感をもってもらえるような造作を施した共通エントランスを設けた。
- ・子ども同士や親子が過ごせる場所を館内に配した。
- ・運営効率化のため、こども図書館ととやま駅南図書館は共通カウンターとした。

○デザインコンセプト“おもちゃ箱をひっくりかえしたような”

明るいカラーリングとリズムカルなデザインの壁画・什器を用いて、子どもたちが館内を探検したくなるような空間を創った。

○施設概要

・開館時間

とやまこどもプラザ（こども図書館・子育て支援センター）

10：00～18：00

とやま駅南図書館

10：00～21：00

・休館日

CiC ビル休館日（毎月第 3 火曜日、年末年始）

・施設内容

・こども図書館 蔵書冊数：約 1.9 万冊

赤ちゃん絵本コーナー、児童図書コーナー、まんがコーナー
育児書コーナー、ゲームコーナー、おはなしのへや

・とやま駅南図書館「ぶらり」（平成 20 年 7 月開設）

蔵書冊数約 1.6 万冊。

一般図書、雑誌、インターネット端末（オンラインデータベース利用可能）

・子育て支援センター（平成 17 年 4 月開設）

子育て支援センターは富山市に 14 施設あり、その中心施設として各施設のとりまとめもしている。

こどもひろば、ことばの発達支援室、相談室、ファミリー・サポート・センター

	入館者数	日平均	貸出冊数
全体	243,073 人	707 人	93,790 冊
こども図書館	84,890 人	247 人	40,169 冊
子ども駅南図書館	99,976 人	291 人	53,621 冊
子育て支援センター	58,270 人	169 人	—

(考察)

- ・こども図書館は、子供たちが探検したくなるようなレイアウト、図書の配列にも工夫がされている。また、子ども同士や、親子の触れ合いを深める工夫がされている。
- ・民間施設の空きスペースを活用したとはいえ、駅前に子育て支援の複合施設を設置したことは、市の方針であるコンパクトシティーの実現であると感心する。
- ・子ども関連の施設が駅前の便利のよい場所に設置され、子育て環境が整っていることを子育て世代にアピールできる。
- ・新しい施設は、どこもコンセプトがしっかりしている。長野市を考えると図書館事業については新たな検討委員会等立ち上げて時代に適した施設の整備が必要だと思う。
- ・今、もんぜんぷら座の活用、改修が課題となっているが、もんぜんぷら座2階に設置している、こども広場「じゃん・けん・ぽん」、長野市ファミリー・サポート・センターは、長野市の子育て支援の施設として重要な施設となっている。この施設を改修、施策の充実を図れば、富山市以上の子育て支援施設として充実した施設になると考える。富山市のこどもプラザは複合化・多機能の施設として大変参考になった。